

獣医寄生虫学の e ラーニングが目指すもの

○片倉 賢 北大獣医学研究科寄生虫学教室

平成 20 年度に文部科学省に「獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議」が設置されたのを契機に、「コアカリキュラム」の作成、複数の大学参画による「共同教育課程」の設置、および「e-ラーニングコンテンツ」の作成がほぼ同時平行して進められています。こうした状況下において、獣医寄生虫学会では、教育問題に関する情報を収集・提供し、今後の方向性について議論・審議することを目的として、日本獣医寄生虫学教育委員会が設置されました。コアカリキュラムと e-ラーニングとの関係をどのように構築していくか、獣医寄生虫学会全体として議論していくことになっています。

獣医寄生虫学の教育においては、寄生虫の形態・系統分類・生活環・生態学的特性・病原性、ならびに寄生虫症の病理・診断・治療・予防まで、すなわち基礎から臨床そして対策まで幅広く教える必要があります。したがって、「必要とされる授業科目」における単位数（2 単位）は現状とかけ離れたものであり、これでは教育内容を到底カバーできないと考えています。講義単位数の問題はさておき、e-ラーニングを予習用と復習用のどちらにも活用できることが必要となります。そのためには、寄生虫症の各々について基礎的な内容とアドバンスな内容をうまく織り込めるようにコンテンツを工夫・設計することが必要と思われれます。具体的には、寄生虫の生活環についてのイラストを用いた説明（図説）を基礎的内容として設定し、イラスト内の寄生虫をクリックすると生きた寄生虫の動画、微細構造の写真や図、系統樹などのアドバンスな内容を表示でき、また、宿主動物をクリックすると臨床症状などのデータを表示できるようにするというものです。そのためには、基礎研究者と臨床家とが協同して内容を十分に精査し、どちらにとっても有益なコンテンツに作り上げていくことが必要です。現在、コンテンツ作成用の統一プログラム作りが行われておりますので、それを用いた試作を紹介させていただきます。